

平成26年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	熊本大学
研究開始年度	平成26年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名
国	特別支援学校	知的障害	熊本大学教育学部附属特別支援学校 (くまもとだいがくきょういくがくぶぞくとくべつしえんがっこう)

### 2 研究テーマ

コミュニケーション能力を育むための教育課程の在り方  
～障害の特性や実態に応じた指導内容や方法の探求～

### 3 研究の概要

(研究内容)

**研究課題1 児童生徒の特性に応じた効果的な指導内容や指導方法を明らかにする。**

- (1)本校が作成したアセスメントシートによる児童生徒のコミュニケーションについて客観的な実態把握を行う。
- (2)アセスメントシートの結果を用いた児童生徒のコミュニケーションの特性の分析と整理を行う。
- (3)児童生徒一人一人の教育的ニーズを基にした指導内容や方法の検討を行う。
- (4)児童生徒のコミュニケーションの特性に応じた指導内容や方法の整理を行う。

**研究課題2 学校教育全体でコミュニケーション能力の向上を図るために、「コミュニケーションの学習」も含めた各教科等を合わせた指導と各教科の関連を調査・分析し、教育課程を検討する。**

- (1)「コミュニケーションの学習」(注釈:コミュニケーションの指導を行う特設した学習)と「その他の学習」(注釈:コミュニケーションの学習以外のすべての学習)とを関連させた包括的な指導を「パッケージの指導」と称し、実証的に検証する。
- (2)学校教育全体での学習場面における重点的なコミュニケーションの指導内容の整理を行う。

(評価の観点及び評価方法)

#### (1) 評価の観点

特性に応じた指導内容や方法、教育課程全体の見直しや改善により、児童生徒のコミュニケーション能力が向上したか。

#### (2) 評価方法

- ①本校が開発したアセスメントシートや評価基準を基にした児童生徒の客観的評価を行う。
- ②研究推進委員会を設定し、研究内容や方法、指導目標や内容等の妥当性の評価を行う。
- ③公開研究協議会を開催し、特別支援教育に携わる方々による幅広い外部評価を行う。

## 4 研究の成果

(成果)

### (1) 知的障害のある児童生徒の重点的なコミュニケーションについての指導内容の整理

アセスメントシートの結果の分析や熊大式授業づくりシステムでの検討から、コミュニケーションスキルのみではなく、人とかかわる意欲や自己理解・他者理解などのコミュニケーションマインド（内面）を育むことが、児童生徒にとって重点的な指導内容であることが分かった。

### (2) 児童生徒のコミュニケーションの特性と指導内容の関連

児童生徒のコミュニケーションの特性を類型化し、それぞれの特性の児童生徒に設定された指導内容を整理すると、コミュニケーションの特性と指導内容に一定の傾向が見られることから、特性に応じた指導内容や方法を明確化することができると考えられる。

### (3) 「パッケージの指導」の有効性

いくつかの学習場面を関連させて包括的に行う「パッケージの指導」を個別の実践事例で取り組み（22事例）、アセスメントシートや評価基準を基にした評価により、児童生徒の変容が認められたことから、その有効性を実証することができた。

### (4) 学習場面における指導内容の整理

学校教育全体における「コミュニケーションの学習」や「その他の学習」での、コミュニケーションの重点的な指導内容を整理することができた。

### (5) 児童生徒の変容

一人一人の教育的ニーズを基にして指導内容や方法を検討し、実践研究を行ったことで、自分から友だちにかかわる意欲が高まったり、相手の気持ちを考えてかかわったりする等、友だちとの好ましいかかわりができる児童生徒が増加した。

## 5 課題と今後の方策

### (1) コミュニケーションマインド（内面）を育む指導内容や方法の充実

人とかかわる意欲や自己理解・他者理解の内面を育む指導内容や方法の充実を図るため、効果的な指導内容や方法の探求や評価の在り方、学校全体で系統的に取り組む体制の整備を行う必要がある。

### (2) コミュニケーションの特性に応じた指導内容や方法の明確化

児童生徒のコミュニケーションの特性に応じた指導内容や方法の明確化を図るため、実践研究の事例数を増やし、指導内容を整理することが必要である。

### (3) 学校教育全体で包括的に行う「パッケージの指導」の充実

「コミュニケーションの学習」と「その他の学習」とで、より相互に補充・拡充・強化を図りながら、学校教育全体で児童生徒のコミュニケーション能力を育む「パッケージの指導」の充実を図る。また、家庭や福祉機関との連携を図り実践研究の範囲を拡げる。

### (4) 根拠に基づく指導内容の設定と教育課程の編成

児童生徒に設定されたコミュニケーションについての指導内容に関連する各教科や自立活動の内容を明確化し、実践研究を行う中で、現行の教育課程の確認や見直しにつなげていくことが必要である。

### (5) 教師の専門性の向上

先導的実践教育校の視察や全国のコミュニケーションに関する研究についての情報収集、専門的な研修、校内授業研究会を通して、教師の専門性の向上を図り、授業の質を高める。